KAWASAKI CLUB NEWS
vol.20
JUN. 2017

川崎医療福祉大学
新設3学科がスタート

4月4日に行われた川崎医療福祉大学の新入生オリエンテーション。1,078名が入学

川崎医療福祉大学は、今年度新たに「子ども医療福祉学科」「臨床検査学科」「診療放射線技術学科」を開設し、第1期生となる学生が入学しました。新設された3学科は、川崎医療短期大学の「医療保育科」「臨床検査科」「放射線技術科」で長年培ってきた教育実績を礎に4年制へ移行したもので、ますます高度化・専門化する医療福祉の現場で活躍できる人材育成に対応するものです。

また、既存の保健看護、感覚矯正、健康体育、リハビリテーション、臨床工学の各学科で入学定員が増員されており、今年度から医療福祉大学は、3学部15学科、入学総定員が1,000名を超える医療福祉の総合大学となりました。これからも学園創設者 川崎祐宣先生により提唱された「医療福祉」の理念を柱として、社会のニーズにしっかり応えられる医療福祉人を育成していきます。

KAWASAKI CLUB
奨学金制度 給付開始

昨年に新設されたKAWASAKI CLUB 奨学金の給付が、今年４月の入学生から始まりました。

この奨学金制度は、KAWASAKI CLUB会員の皆さまの生涯教育・生涯学習支援の一環として設けられたもので、会員及び会員のお子さま（１親等）が医療福祉大学、医療短期大学、リハビリテーション学院のいずれかへ入学された際に、入学した施設の入学金の2分の1を奨学金として給付する制度です。

会員ご自身が再び川崎学園を学びの場とする、あるいは、会員のお子さまが、良き医療福祉人としての第一歩をこの川崎学園でスタートしてくださることは、誠に喜ばしい限りです。

制度の詳細については、KAWASAKI CLUB Web サイトの「KAWASAKI CLUBのご案内」のページに掲載しています。http://www.kawasaki-m.ac.jp/club/

KAWASAKI CLUBでは、これからも会員の皆さまの生涯教育に資する環境を整えてまいります。

川崎学園ヒストリア （P5参照）

川崎学園でのメディカルスペシャリストの育成は、1973年開学の川崎医療短期大学に始まります。その翌年に開学した川崎リハビリテーション学院とともに、長きにわたりパイオニア的役割を果たしてきました。

川崎医療短期大学建学のコンセプトは、将来における医療の高度化を展望し、医師団を助ける有能な医療技術者の養成を図るという、当時の短期大学としては他に類を見ない先駆的な内容でした。

順次開設された学科は、時代のニーズに確実に応えるものでした。

第1看護科、第2看護科、臨床検査科＊（1973）、放射線技術科＊医療秘書科＊（1977）、栄養科＊（1983）、医用電子技術科（1988、後の臨床工学科＊）、医用デザイン科＊（1994）、介護福祉科（2001、後の医療介護福祉科）、医療保育科＊（2005）

＊後に、医療福祉大学に移行された学科

川崎医療短期大学 第1回入学式（1973年）川崎祐宣理事長（当時）が学長を兼務、第1看護科、第2看護科、臨床検査科の3学科、1期生76名でスタートした。

学園の今 （H28.12月～H29.5月） Webサイトで最新のトピックをご覧いただけます。 川崎学園HP > News&Topics KAWASAKI CLUB HP > 学園の今 各施設Webサイト

◆総合医療センター 開院（H28.12/1）
◆川崎塾5期スタート（12/17）
◆災害時の避難場所に関する協定を岡山市と締結（H29.1/16）
◆学園防災の日（1/20）
◆医科大学 KMSメディカル・アーク2017開催（2/15）
◆日本医療マネジメント学会岡山県支部学術集会（2/18）
◆看護師特定行為研修指定機関の認可（2/27）
◆医科大学 女子寮竣工（2/28）
◆北テニスコート改修完成説明会（3/1）
◆かわさき認定こども園（仮称）新築工事起工式（3/17）
◆上海健康医学院訪問団の受入れ（3/29）
◆医療福祉大学 3学科新設（4/1）
◆附属高校 男子寮竣工（4/1）
◆現代医学教育博物館2階展示リニューアル（4/1）
◆職員健康推進室設置（4/1）
◆働き方改革推進室設置（4/1）
◆川崎学園入学時合同研修2017（4/8）
◆48回目の川崎学園創立記念日（6/1）

「看護師特定行為研修」開講

看護師対象：1年間コース

中国地方初 厚生労働省認可 指定研修機関

川崎学園は、中国地方では初めてとなる看護師特定行為の指定研修機関（10区分）として、今年2月に厚生労働省から認可を受け、4月7日㈮に開講式を行いました。

開講したのは「呼吸管理コース」と「創傷･ろう孔管理コース」の2コースです。本年度は、岡山県内だけでなく、滋賀県、愛媛県、広島県からの受講者がいます。

特定行為研修を修了すると、医師･歯科医師があらかじめ作成した手順書（患者の病状の範囲、診療の補助の内容）に定められている特定行為が実施できるようになります。

特定行為は、在宅医療だけでなく、急性期の医療現場で実施ニーズが高い行為も含まれており、看護師活動の場の広がり、チーム医療の質の向上、地域医療への貢献にもつながります。特定行為研修の実施は、当学園がめざす人材育成にも寄与するものです。看護師の皆さんがより高度な臨床実践能力を発揮できるよう、研修の充実に取り組んでまいります。

平成29年度の研修概要
- コース名と募集人数（各5名）　※２つのコース両方の受講も可能
  - 呼吸管理コース：●呼吸器（気道確保に係るもの･人工呼吸療法に係るもの･長期呼吸療法に係るもの）関連　●栄養に係るカテーテル管理（中心静脈カテーテル管理･末梢留置型中心静脈注射用カテーテル管理）関連　●動脈血液ガス分析関連　●栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連
  - 創傷･ろう孔管理コース：●腹腔ドレーン管理関連　●ろう孔管理関連　●創傷管理関連　●栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連
- 研修場所 ―― 川崎医科大学附属病院･川崎医科大学総合医療センター

問合せ先：看護実践･キャリアサポートセンター（川崎医療福祉大学内）　Tel:086-462-1111㈹　内線54216

川崎医療福祉大学 医療秘書学科

社会人対象：6ヶ月コース

「クリニカルセクレタリー育成プログラム」開講

文部科学大臣認定 職業実践力育成プログラム（BP）

クリニカルセクレタリーとは、診察室等の臨床現場で医師と一緒に働き、医師の事務作業の補助はもとより、チーム医療の「段取りマネジャー」として働く医療秘書のことです。

このような医療秘書へのニーズが高まったことから、医療秘書学科では特別育成プログラムを開発し、2014年からクリニカルセクレタリーの育成を行っています。

そして、今年4月から、すでに医療現場で働いている社会人で、よりハイレベルな専門性を修得したいと考えている方を対象に、働きながら学べるコースを開設しました。

この育成プログラムは、「医師の事務作業領域」と「段取りマネジメント領域」から構成され、段取りマネジメント領域には、国際的プロジェクトマネジメント標準であるPMBOK（米国PMI管理･米国国家規格）から抽出したものを採用しています。昨年12月には、文部科学大臣より「職業実践力育成プログラム（BP；Brush up Program for professional）」として認定されました。

講義は医師を主とした実務家教員による、即実践力を修得できる123時間の6ヶ月コースです。社会人向けに配慮された時間帯で、職場や自宅からでも学べるよう、インターネット･ビデオ会議システムを活用して行っています。卒業生の皆様も、ぜひとも学びなおしの機会としてご利用ください。詳細は、医療秘書学科オリジナルホームページをご覧ください。

北テニスコート改修完成

医療福祉大学北側の「北テニスコート」の改修工事が2月末に完了しました。

従来の「クレーコート（土（つち））」7面の内、6面が「砂入り人工芝コート」（通称、オムニコート）として生まれ変わりました。砂入り人工芝コートは、名のごとく人工芝に砂をまいたもので、乾きが速く、雨後も短時間でプレーが再開できるため、雨の多い日本では広く普及しています。

これまで、雨が降った後は数日にわたり利用できず、また、その手入れも大変でしたが、今回の改修によりその不便さが解消されました。夜間照明も完備され、授業だけでなく、学生のクラブ活動や教職員の親睦などでもより一層活用しやすくなっています。

認定こども園 新築工事始まる

平成30年4月の開園を予定している「かわさき認定こども園（仮称）」の新築工事起工式が、3月17日㈮に執り行われました。竣工は平成30年2月の予定です。

このたびの認定こども園の開設は、保育士・幼稚園教諭の養成校を擁する学園として、その高い専門知識・技術を活かし、「すべての子どもに質の高い幼児期の学校教育及び保育の総合的な提供を行う」ことを目的としています。

また、学園では、保育や幼児教育の現場においては、医療や発達障害に関する知識は不可欠であるとの考えから、それらの知識をしっかり身につけた人材の育成に力を入れています。開設する認定こども園には、そうした保育教諭をはじめ、看護や栄養の専門職を配置し、子ども一人ひとりを大切にした園の運営を行う計画です。

この認定こども園は、今春に新設された子ども医療福祉学科をはじめ、医療福祉大学の各学科の学生実習の場ともなります。

なお、入園に関する説明会は、9月頃を予定しております。

【認定こども園の概要】

名　　称：かわさき認定こども園
利 用 定 員：1号認定24人（3歳8人，4歳8人，5歳8人）
　　2号認定60人（3歳20人，4歳20人，5歳20人）
　　3号認定30人（0歳5人，1歳10人，2歳15人）
施設の概要：鉄筋コンクリート造2階建
　　延床面積1,591.05㎡，敷地面積6,480㎡
設置予定地：医療福祉大学北側（駐輪場・弓道場の北）

かわさき認定こども園（仮称）の完成予想図

現代医学教育博物館の展示リニューアルが新聞で紹介されました（2017/5/23山陽新聞朝刊掲載）

現代の医学 幅広く紹介

川崎医科大現代医学教育博物館（倉敷市松島）が9年がかりで取り組んできた展示室の全面リニューアル事業が完了した。「体のしくみ」に始まり、「病気の予防」「いろいろな病気」、そして新たに「最新の医療」を加えた4コーナーで、現代医学を巡る幅広い関心に対応している。（大石哲也）

9年がかりのリニューアルが完了した現代医学教育博物館の2階展示室

川崎医科大 教育博物館リニューアル

最先端の内視鏡手術ロボットを駆使した治療の光景が大画面で繰り広げられる。「最新の医療」コーナーは、私たちが受けられる医療の進化を臨場感たっぷりに伝えてくれる。

同大創立10周年記念事業で1981年、全国的にも数少ない医学の教育普及施設としてオープンした同博物館。当初の展示テーマは「生活習慣病」だったが、授業や研修で訪れる児童生徒や医療系専門学校生ら、来館者の世代が広がるにつれて「『もっと本格的に学びたい』との声が集まってきた」と同博物館の中村信彦課長。要望に広く応えるため、2008年からリニューアルを進めてきた。

展示は四つのテーマで再構成。各コーナーは、小学4年生でも理解できるよう表現を工夫した解説パネル約20点に、臓器や骨格の模型、標本と視聴覚機器などを組み合わせ、段階的に開設してきた。

「体のしくみ」コーナーは、生命の誕生から細胞の構造、呼吸器や消化器、骨格など人体のつくりを紹介。「病気の予防」は、生活習慣病、感染症などを防ぐための食生活改善や予防接種、健康診断などの大切さを指摘する。「いろいろな病気」では、がんのさまざまな症例や男女の年代ごとにかかりやすい心身の病気を取り上げている。

4月に完成した最後の「最新の医療」コーナーでは、同大付属病院が全国に先駆けて導入したドクターヘリをはじめ、人間技の限界を超えて精密な手術を可能にするロボット支援システム、コンピューターナビゲーションを用いたスポーツ外傷治療などを解説。84インチの大型モニターを設置し、同大の付属病院や総合医療センター（岡山市）での高度医療を動画で紹介している。

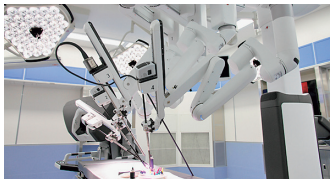
中村課長は「大人から子どもまで、多くの人に医学や医療、健康について楽しみながら理解を深めてもらえる場にしたい」と話している。

入館無料。学園創立記念日（6月1日）と年末年始、祝日のみ休館。

新たに開設された「最新の医療」コーナー

9年がかり 新たに「最新の医療」開設

川崎医科大学総合医療センター
新病院 順調なスタート



総合医療センターは、昨年12月1日の開院以降、外来、入院、救急とも多くの患者さんを受け入れ、また手術件数も順調に伸びています。

救急車搬送受入については、「お断りしない救急」の方針で取り組んでおり、平成28年度は3,467人を受け入れ、特に移転後は1日平均10台を超えています。

稼働病床は、開院時は421床でしたが、順調に入院患者さんが増え、4月からは56床を増やし、現在は477床です。（許可病床数647床）

患者数は、移転前に比べ、外来が1日当たり約65人増、入院は約63人増。12室ある手術室のうち稼動は7室ですが、手術件数は移転前に比べ、1か月平均で約86件の大幅な増加となっています。

診療体制でもさまざまな取り組みを加速しています。例えば、内科（循環器担当）と外科（心臓外科）の連携のもと、循環器疾患の受入体制を構築。開院直後からドクターカーによる前方搬送を開始、1月からは24時間体制での循環器当直、加えて2月からは循環器ホットラインを開設し、緊急の循環器疾患を精力的に受け入れています。また、2月からは、高精度放射線治療装置（リニアック）を用いた放射線治療を開始しています。

猶本病院長以下職員一丸となって、地域の皆さまに信頼される病院を目指し頑張っています。

「開院記念市民公開講座」

総合医療センターの特色ある医療、疾患の最新治療や予防について、開院直後から今年の11月まで毎月1回開催しています。次回は6月17日㈯です。（詳細はP8）

今後の予定やこれまでの講演内容は、総合医療センターのWebサイト https://g.kawasaki-m.ac.jp/ でご紹介していますので、ぜひご覧ください。

これまでの開院記念市民公開講座のテーマ

第１回	高度ながん治療の最前線
第２回	脳卒中治療の最前線
第３回	呼吸器感染症の予防－高齢者が長生きするために－
第４回	内視鏡センターの取り組み
第５回	女性のがん－検診から最新の治療まで－
第６回	おしっこのお話－日常診療から最新医療まで－

新施設長メッセージ

川崎医科大学総合医療センター
病院長　猶本 良夫

当院は昭和13年に初代川﨑祐宣病院長が外科昭和医院を開設されて以来、24時間体制の救急医療を中心に発展してまいりました。創立79年を経て総合医療センターと名称が変わりましたが、引き続き地域に密着した急性期病院として使命を果たしてまいります。「地域住民に信頼され安全・安心な医療を提供できる病院」を基本方針とし、地域住民の皆さまが安心して暮らせる「救急医療」、がん治療など最先端の医療を提供する「高度専門医療」、患者さんの早期社会復帰を図る「リハビリテーション」を3本の柱に、当院の理念に従って患者さんに寄り添った質の高い医療を提供できる体制を構築していきます。質の高い救急医療を実践しなければ地域における病院の価値も、存在意義も希薄なものとなります。また、確固たる救急医療の基盤がなければ総合医療センターとしての機能を果たすことはできません。

当院の長い歴史において、職員・諸先輩はもとより、患者・家族の方々、地域住民、地域の医療・福祉・行政の関係者など多くの皆さまに当院が支えられてきたことを考えますと、病院長の任に当たり、たいへん身の引き締まる想いがします。病院の設備・機能は、極めて充実しております。敷地内には、旧深柢小学校グウランド跡地を活用した「深柢ガーデン」が整備されております。旧川崎病院屋上庭園の薔薇や、長年美しい花を咲かせてくれている桜も移植されしっかりと根付いて、春にはきれいな花を咲かせてくれます。

これまで私も、多くの諸先輩方にご指導いただき、同僚、後輩、職員の方々に支えられてまいりました。また、診療を通して大勢の患者さんやご家族の方々と接し、多くを学んでまいりました。これまでの経験と多くの方々とのつながりを生かして、これから、地域における価値を最大化した名実ともに総合医療センターと呼ぶにふさわしい病院にしていきたいと強く思っております。今後、医療と私達を取りまく環境は大きく変貌すると予測しています。職員と共に地域の皆さまと手を携えて地域に根差した強くしなやかな総合病院を構築していきたいと思っております。

（平成29年4月1日就任）

本学園の教職員が 大会長を務めます

学会・研究会名	開　催　日	会　　場	代　　表　　者
第54回日本リハビリテーション医学会学術集会	2017/6/8～6/10	岡山コンベンションセンター 他	大会長：椿原 彰夫（川崎医療福祉大学学長）
日本アンドロロジー学会 第36回学術大会	2017/6/30～7/1	倉敷芸文館	会　長：永井 敦　（川崎医科大学 泌尿器科学教授）

川崎学園ヒストリア

この記事は、学園内広報誌『川崎学園だより』に昨年２月から連載中の「川崎学園ヒストリア」の記事をもとに作成しています。「川崎学園ヒストリア」では、学園の精神に連なることばやエピソードをご紹介しています。連載中の記事は、KAWASAKI CLUBのWebサイトの特設コーナーでご覧いただけます。

「医療福祉」、川崎病院から旭川荘、そして川崎学園、医療福祉大学開学へ

川崎医療福祉大学は1991（平成3）年、日本で最初の「医療福祉」の概念に立つ4年制大学として開学。昨年、創立25周年を迎えました。「医療と福祉は一体でなければならない」、この信念は、川﨑祐宣先生が医師として川崎病院で日々患者と接する中から生まれ、やがて、“総合医療福祉施設” 旭川荘を開設するに至ります。
その後、この想いは川崎学園にも受け継がれ、メディカルスペシャリストの育成にあたってのバックボーンとなっています。

2016 川崎医科大学
総合医療センター開院

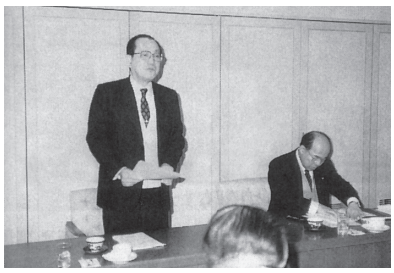
開学式で挨拶する川崎明徳理事長（当時）

1991 医療福祉大学開学
1974 リハビリテーション学院開設
1973 医療短期大学開学
1973 医科大学附属病院開院
1971 総合病院川崎病院から
川崎医科大学附属川崎病院へ名称変更
1970 学校法人川崎学園設立
医科大学、附属高校開学
1960 総合病院川崎病院開設
1956 財団法人旭川荘創設
1950 財団法人川崎病院設立
1939 外科川﨑病院開院
1938 外科昭和医院開業

川崎医療短期大学の第1回入学式（P1参照）

1962年、昭和天皇・皇后両陛下の旭川荘ご訪問
ご案内をする川﨑祐宣 理事長（当時）

大学設置の陣頭指揮に当たった川崎明徳学園長（当時理事長）にお話をうかがいました。


1988年12月12日、「新大学設立準備委員会」第1回会合で挨拶する川崎明徳理事長（現学園長）と初代学長となる江草安彦先生

― 学園創立10年目に４年制大学設立へ？

メディカルスペシャリストの養成は、既にその頃、医療短期大学とリハビリテーション学院で着実な実績をあげていました。学園卒業生以外からは採用しないという病院があるまでになっていましたが、「医療福祉」の理論と実践が熟成しつつあった昭和55年、ちょうど学園創立10年目に、4年制大学も検討することが決まりました。（中略）

議論を重ねました。社会福祉学に医療を重ねてやろう。理論だけじゃだめだ、医療技術も一緒にやろう。マネジメントも大切だ。

現実の難しさもあります。例えば、感覚矯正学科というのは全国でも現在に至るまで本学だけです。耳鼻と眼は同じ神経系だから一緒にしよう。でも医学では耳鼻咽喉科と眼科は分かれているので講師の調整はどうする。看護は技術か福祉か。看護はそれまでの医学の概念では “技術” とされていました。福祉のマインドが必要だ。そもそも医学とは何か。医療は技術か。本質論も戦わせ、また、人材が不足し社会が待望している職種は何か、とさまざまな検討を重ねました。

― 建築場所の決定の経緯は？

「ふるさとの森に30階建てのペンシル形の高層ビルを建て、ランドマークにする」というのが祐宣学園長(当時)の案でした。

しかし、4,000人近い学生や教員がエレベーターで上がり下がりすることになり、増築も難しく、既設の附属病院への影響も心配して皆が反対しました。工期も、文部省(当時)の認可から1年以内の決まりがあり、ふるさとの森は岩盤で基礎工事が短期で済むとはいえ、高層ビルは到底間に合わないとの設計士の意見でした。

結局、拡張性があり自由に設計できる現在の場所に決定しました。祐宣学園長はこの案にかなり想いがあったようで、へそを曲げて、建物が完成しても最初見に行かなかったです(笑)

― 設置認可までの道のりは？

全国に先例のない大学ですから、文部省の受け止め方も複雑なようでした。

まず、文部省に『医療福祉』の概念を理解してもらうところからです。そういう概念が無いし、そういう大学も無い。“福祉” と名の付く大学や医科大学はあるが、『医療福祉』となると設置基準から考えないといけない。文部省へは何度も通いました。結局、理学部の設置基準に準じることになるのですが、ハードルが高く準備は大変でした。

新設大学では当時その例を見ない、入学定員500名の大規模大学でした。

（ヒストリア〔4〕〔5〕〔6〕より）

診療科ご案内 川崎医科大学附属病院 耳鼻咽喉科

耳鼻咽喉科では、新生児から高齢者まで幅広い年齢層を対象に、耳、鼻副鼻腔、口腔、咽頭、喉頭、気管、食道、頭頸部と広範囲にわたる領域の診断・治療を行っています。これらの部位は、聴覚・平衡覚・嗅覚・味覚・音声・嚥下・呼吸など、日常生活において非常に重要です。特に超高齢社会にある本邦では健康寿命の質を高めるため、耳鼻咽喉科医の果たすべき役割は増しています。

当科では、安全でより良質な医療を提供するため、これまでの診療体制に加え、本年５月から慢性中耳炎、アレルギー性鼻炎、副鼻腔炎、音声障害、睡眠時無呼吸、頭頸部腫瘍については専門外来も開設しました。スタッフ全員で常に最善の医療を提供できるよう努めています。

原 浩貴 教授

診療科ご案内 川崎医科大学総合医療センター 放射線科

放射線科は、画像診断、IVR（低侵襲治療）、放射線治療を受け持ちます。新病院では最新のPET-CT、３Dマンモグラフィ、IVR-CTなどが導入され、岡山屈指の最新鋭装置を駆使し、より正確な画像診断、低侵襲治療が可能になっています。また高精度放射線治療システムも新たに導入し、患者さんの負担が少なく安全な放射線治療を施行する環境も整いました。さらに各種画像診断装置を院外からも簡単に共同利用して頂けるよう、24時間予約可能なWeb予約・結果閲覧システムを導入しています。

院内・院外を問わず、ほぼ全ての診療科と繋がりをもつオールマイティな放射線科として、さらなる充実を目指し努力して参ります。

加藤 勝也 教授

川崎医療福祉大学 川崎医療短期大学 川崎リハビリテーション学院 3校合同入試を実施

昨年度、川崎医療福祉大学、川崎医療短期大学、川崎リハビリテーション学院の３校は、全入試日程を統一し、同一の問題による入試を実施しました。中でも後半の併願可能な入試区分（推薦入試後期～一般入試後期）では初めての３校合同面接を実施しました。３校全体で5,381名の出願があり、2,063名の合格を決定し、多くの新入生を迎え入れることができました。

今年度実施する平成30年度入試においても引き続き合同入試を実施します。（概要は下記参照）学外試験会場には若干の変更がありますが、大枠は昨年度と同様です。昨年の試験問題や平均点等の情報を医療福祉大学ホームページで公開していますのでご確認ください。

【平成30年度入試の主なポイント】

1. 3校間の併願が可能
2. 3校全学科AO入試（前期・後期）
3. 受験機会が拡大
4. Web出願を実施

平成30年度 3校合同入試の概要

6月下旬に各校Webサイトに掲載します。

	入試区分	専願・併願※1	出願期間	試験日	合格発表	試験会場	備考
川崎医療福祉大学 川崎医療短期大学 川崎リハビリテーション学院 3校合同入試	AO入試 前期	専願	8/3～8/15	8/26(土)	9/1	出願した各施設	
	AO入試 後期	専願	9/7～9/19	9/30(土)	10/6		
	推薦入試 前期	公募 専願	10/4～10/16	10/28(土)	11/4		
		有資格※2 専願					
		指定校※3 専願					
	推薦入試 後期A日程	併願	10/30～11/11	11/25(土)	12/4	医療福祉大学 東京（一般のみ） 大阪 姫路 米子 広島 山口 高松 松山 高知 福岡	A、Bの両日程の受験可能
	推薦入試 後期B日程	併願		11/26(日)			
	一般入試 前期A日程	併願	1/4～1/16	1/30(火)	2/9		A、Bの両日程の受験可能
	一般入試 前期B日程	併願		1/31(水)			
	センター試験利用入試	併願		1/30(火)・1/31(水)いずれかで面接			一般入試前期との同時出願可能
	一般入試 後期	併願	2/3～2/13	2/22(木)	2/28	医療福祉大学	

※1 併願入試区分は、医療福祉大学、医療短期大学およびリハビリテーション学院の各学科の併願が可能です。ただし、センター試験利用入試についてはリハビリテーション学院を除きます。

※2 推薦入試前期の有資格入試は、医療福祉大学、医療短期大学、リハビリテーション学院の全学科で実施します。

※3 指定校推薦は全学科で実施します。該当校には通知しますが、公表はしません。

速報

第43回 川崎学園祭

2017年 10月21日(土)・22日(日)

統一テーマ:「カルテット」

カルテットとは四重奏という意味です。川崎学園の医科大学、医療福祉大学、医療短期大学、リハビリテーション学院をはじめとする全ての施設がそれぞれの特色を生かし、共鳴することで川崎学園祭でしか味わえないハーモニーを奏でます。その音色が病院の患者さんやそのご家族、そして教職員や学生から、地域や来場される方へと伝わり、学園祭に関わる人々が皆でともに創り上げる学園祭になることを願い、このようなコンセプトにしました。

川崎医科大学附属病院
医学講演会　21日(土)　13:30～15:00
笑顔で脳いきいき -認知症になっても安心して暮らせるまちづくり-
講師／久德 弓子　医科大学 神経内科学 講師、附属病院 神経内科 医長

医学展　21日(土)・22日(日)
「認知症」がテーマ

川崎医療短期大学 公開講座　21日(土)　14:00～
職場でよくみるメンタルヘルス不調とその対策
講師／勝山 博信（医科大学 公衆衛生学 教授）

オープンキャンパス 詳細は下記参照

第11回ホームカミングディ　21日(土)・22日(日)
(川崎医療福祉大学同窓会)
会場／医療福祉大学3階レストラン（予定）

第6回松丘会ホームカミングデー　21日(土)
(川崎医療短期大学同窓会)
会場／医療短期大学校舎棟2階 学生ホール

※各種イベント情報等は決定次第、Webサイトでお知らせします。

学園のなかま　2017年5月1日現在

在学生	川崎医科大学	763名
	川崎医療福祉大学	3,606名
	川崎医療短期大学	856名
	川崎医科大学附属高等学校	73名
	川崎リハビリテーション学院	167名
教職員		4,485名 ※
卒業生	川崎医科大学	4,396名
	川崎医療福祉大学	18,059名
	川崎医療短期大学	15,025名
	川崎医科大学附属高等学校	1,646名
	川崎リハビリテーション学院	1,915名
KAWASAKI CLUB会員		47,894名

※ 委託職員を含む

オープンキャンパス・学校説明会　※は学園祭と同時開催

川崎医科大学
8月　5日(土)　12:30～
問合せ先　☎086-464-1012 教務課

川崎医科大学附属高等学校
学校説明会：本校
第1回　7月23日(日)　10:00～
第2回　8月27日(日)　10:00～
第3回　10月29日(日)　10:00～
問合せ先　☎086-462-3666 事務室

詳細は各施設のWebサイトをご覧ください。
上記日程以外で個別に見学等をご希望の方は、各施設にお問い合わせください。

川崎医療福祉大学・川崎医療短期大学・川崎リハビリテーション学院 3校合同オープンキャンパス
第1回　6月18日(日)　10:00～
第2回　7月23日(日)　10:00～
第3回　3月18日(日)　13:00～
問合せ先　☎086-464-1064
川崎学園アドミッションセンター

川崎医療福祉大学
8月　6日(日)　10:00～
※10月21日(土)・22日(日)　10:00～
問合せ先　☎086-464-1004 入試課

川崎医療短期大学
8月19日(土)　13:00～
※10月21日(土)・22日(日)　10:00～
問合せ先　☎086-464-1033 教務課

川崎リハビリテーション学院
第1回　8月　5日(土)　13:30～
※第2回　10月21日(土)　13:30～
入試説明会　12月16日(土)　13:30～
問合せ先　☎086-464-1179 事務室

平成30年度 入試情報

平成29年5月現在の情報です。詳細は各施設のWebサイトをご覧ください。

	試験区分	出願期間	試験日	合格発表	募集人員
川崎医科大学	特別推薦入試（専願）	11/1 ～ 8	一次 11/11(土) 二次 11/25(土)	未定	中国・四国地域枠　約15名 岡山県地域枠　約 5名
	一般入試	12/1 ～ 1/10	一次　1/21(日) 二次　1/26(金)又は27(土)	未定	一　般　約60名 静岡県地域枠(専願)10名 長崎県地域枠(専願)　6名
	大学院	未定			25名
川崎医科大学附属高等学校	専願入試（※1）		1/14(日)		
	一般入試（※1）		2/18(日)		
川崎医療福祉大学	編入学	8/22 ～ 29	9/ 8(金)	9/14	40名
	編入学二次（※2）	2/9 ～ 16	2/28(水)	3/ 5	若干名
	大学院入試 修士課程・博士後期課程1期	8/22 ～ 29	9/ 8(金)	9/14	修士59名　博士若干名（※3）
	大学院入試 修士課程・博士後期課程2期	2/9 ～ 16	2/28(水)	3/ 5	修士26名　博士若干名（※3）

（※1）附属高校の内容は、現時点の予定です。正式な日程は7月下旬に発表する募集要項でご確認ください。
（※2）9/8の試験で定員を充足しなかった場合実施。
（※3）博士後期課程1期・2期合わせて17名。

公開講座・セミナーのご案内（6月～10月）

学園祭（10/21・22）と同時開催はP7に掲載しています。
現在決定している主なものです。最新情報は各施設のWebサイト等でお知らせいたします。

主催	公開講座・セミナー名	テーマ	日時	講師（①②③は講演順）	会場	対象	参加費・申込	定員	問合せ先
総合医療センター	第7回 開院記念 市民公開講座	**いつまでも楽しく、 元気に動けるために**	6/17(土) 13:30～15:30	挨拶　阿部 信寛（整形外科 部長） ①山下 裕之（リハビリテーションセンター 理学療法士） ②島本 一紀（整形外科 医長） ③玉田 利徳（整形外科 副部長） ④東條 好憲（整形外科 医長）	2階 川崎祐宣 記念ホール	一般	無料 申込必要	300名	病院庶務課 庶務係 086-225-2171
	毎月テーマを変えて、11月まで全12回開催します。								
医療福祉大学	第2回公開講座 「笑顔あふれる！ポジティブライフのすすめ」	**第1話「音楽と笑顔で健康生活!」 第2話「子どもが運動を好きになるために」 第3話「『聴こえ』を知って、家族に笑顔」**	第1話　6/17(土) 第2話　6/24(土) 第3話　7/1(土) 10:30～12:00	第1話 田中 順子（リハビリテーション学科 准教授） 第2話 斎藤 辰哉（健康体育学科 助教） 第3話 川上 紀子（感覚矯正学科 講師）	講義棟4601教室 (6/24のみ、医療福祉大学体育館)	一般	無料 申込不要	なし (6/24のみ、50名)	公開講座係 086-462-1111 (内線54222)
	公開セミナー	**【医療秘書学科】 チーム医療のための医療プロジェクトマネジメント研修セミナー**	6/3(土)、4(日) 10:00～17:00 8/19(土)、20(日) 10:00～17:00	宮原 勅治（医療秘書学科 教授） 山本 智子（医療秘書学科 教授） 須藤 芳正（医療秘書学科 教授）	本館棟 6101教室 6105実習室 6108実習室	医療現場の管理者、医師、看護師、事務職員等	無料 申込必要	各20名	医療秘書学科 山本 086-462-1111
		【感覚矯正学科】 テーマ未定	7/15(土) 14:00～16:00 （予定）	彦坂 和雄（感覚矯正学科 教授）	講義棟 4602教室	一般	無料 申込必要	なし	言語聴覚資料室 長江 086-462-1111 (内線54631)
		【臨床心理学科】 知って得!心が楽になるストレス対処法	9/9(土) 10:00～11:30	谷原 弘之（臨床心理学科 教授）	講義棟 4603教室	一般 大学生 その他	無料 申込必要	100名	臨床心理学科 白神 086-462-1111 (内線54556)
		【健康体育学科】 中高年者のための水中運動	10/3、10、17、24(火) 10:00～12:00	小野寺 昇（健康体育学科 教授）	医療福祉大学 温水プール	一般	1回500円 申込必要	各30名	健康体育学科 086-462-1111 (内線54531)
医療短期大学	第1回公開講座	**食べる楽しみを大切に ～低栄養状態を知り、介護予防につなげよう～**	6/17(土) 10:00～11:30	河邉 聡子（医療介護福祉科 准教授）	医療短期大学 体育館 101教室	一般 高校生	無料 申込必要	200名	公開講座係 086-464-1032
	第2回公開講座	**突然の心臓発作や心停止！ あなたとあなたの大切な人を救うために！**	8/19(土) 10:00～11:30	井上 千穂（看護科 非常勤講師 附属病院 看護師）				50名	
	公開セミナー	**【医療介護福祉科】 THE Six SENSE ～医療福祉シミュレーション～**	9/3(日) 13:00～16:00 （予定）	NPO法人 Ubdobe 医療介護福祉科 教員		高校生 保護者 一般		100名	医療介護福祉科 山田 086-462-1111

岡山県生涯学習大学、吉備創生カレッジ、倉敷市大学連携講座でも、本学園の教員が多数講師を務めています。

川崎学園およびKAWASAKI CLUB のWebサイトで最新のトピックを紹介しています。ぜひご覧ください。 川崎学園 ＞ メディア情報　KAWASAKI CLUB ＞ News & Topics

以下は、一部紹介　（　）は掲載日・発行日

※山陽新聞以外は著作権の関係で掲載しておりません。

❖山陽新聞MEDICA　シリーズ

「地域と歩む医療福祉人」掲載中（全9回予定）

ⓐ①言語聴覚士　失語症者の生活支援（1/16）
②臨床心理士　切実な悩み、思いに対応（2/6）
③健康運動指導士　超高齢社会 活躍に期待（2/20）
④医療に強い介護福祉士　「施設から在宅」橋渡し期待（3/6）
⑤医療ソーシャルワーカー　関係者つなぎ生活支援（3/20）
⑥認定遺伝カウンセラー　遺伝の問題で意思決定支援（4/17）
⑦視能訓練士　「眼」の障がいを矯正（5/22）

総合医療センターの開院記念市民公開講座特集（全12回予定）
※P4参照

地域と歩む医療福祉人

川崎医療福祉大学保健医療学部長・医療技術学部教授　稗村　純

言語聴覚士

失語症者の生活支援

■山陽新聞

- 現代の医学幅広く紹介 川崎医科大 教育博物館リニューアル（5/23）[医科大学]　※P3に掲載
- 福渡病院へ壁画アート「待合スペースに温かみ」（5/14）[医療福祉大学]
- 院長に聞く 総合力で地域密着の急性期病院に MEDICA（4/17）[総合力で地域密着の急性期病院に MEDICA（4/17）[総合力で地域密着の急性期病院に MEDICA（4/17）[